



大利根東小だより



学校教育目標

- ◎自ら学び自ら考える子 (かしこく)
- ◎こころゆたかな子 (こころゆたかに)
- ◎明るくたくましい子 (たくましく)

**【めざす学校像】「元気・やる気・本気・根気・勇気・和気」(6つの気)をもって
 自ら学び、互いに成長し合う児童を育む学校 【校訓】「流汗精進」
 ～3合い(愛)「助け合い・励まし合い・認め合い」の仲間づくりをとおして～
 笑顔・感動・思い出っぱいの学校へ**



本日で 78日登校した2学期を保護者・地域の皆様のお陰で無事に終えることができました。子どもたちは、東っ子まつり、修学旅行、校外学習、持久走記録会等、6つの気と3つの合いを意識した自分づくり・仲間づくりに切磋琢磨し、大きく成長しました。詩の暗唱や業間運動・家庭学習・家読・漢字・計算等にコツコツと毎日努力し、やる気のある目つき、顔つきで本気で取り組んだ子は、確実に力が付いてきました。しかしながら、名前を呼んであいさつや大きな返事が学校や地域で、できる子とできない子の格差があります。学習用具や宿題等の忘れ物が多い子も、散見されます。本日、保護者の皆様にお渡ししたお子さんの2学期の通知表の成績や所見等をしっかりとご覧ください。お子さんの2学期の成果や課題をよくご確認されながら、3学期の目標や課題の解決策について、お子さんと時間を取って真剣に話し合ってください。年末年始も、感染症防止やご家族の健康管理に最大限ご留意されつつ、ふれあいある笑顔で素敵なお新年をどうぞお迎えください。

現状把握・現状打破からの切磋琢磨で自己の改革・進化・成長を！

～長友選手から学ぶ、「今の自分は大丈夫か？どう努力・改善すべきか？」～

校長 小林 秀行

昨年、サッカーワールドカップ・カタール大会に日本人最多の4大会連続で臨んだ長友佑都選手は年齢による衰えや大けが、周囲の厳しい目と闘ってきました。その経験から、彼は「人間には無限の可能性が秘められている。だからこそ誰もが夢をもち、それを実現させようと頑張れる。何を頑張るかと言えば、まずは自分という人間を磨くことだ」と述べています。

長友選手は37歳ながら、なぜ活躍し続けることができるのでしょうか？彼はインタビューでこう語っています。「勝てるのでは？と試合前に大丈夫という変な自信がある時は負けていた。今の自分は本当に大丈夫なのか？と現実の自分に向き合い、今準備することは何か？この前の失敗やミスを防ぐためにどう練習し、本番でどう動けば成功につながるのか？筋肉の状態がどんな感じなら本当に大丈夫か？としっかりと現状を把握し、試合に臨んでいたから活躍できた」と。

長友選手はこれまでの失敗や挫折を肥やしにして、今の自分をしっかりと見つめ、逃げずにぶれずに臆すること無く本番までの準備を怠りませんでした。子どもたちが取り組んでいる思考・判断・表現力を高める学習にもヒントを得た感じがします。

調整能力に優れた有能な長友選手は、ふだんの生活でも思考・判断・表現力を連動させて、自分をコントロールします。目標に向かって決して妥協しない強い信念や逆境になっても修正できる資質・能力、屈強でありながら、しなやかな精神力があるからこそ、サッカーワールドカップに4大会連続出場したという栄冠につながったのではないかと推察します。

つまり、日々の基本的な生活習慣である「早寝・早起き・朝ご飯」「あいさつ・そじ・ことばづかい・歯みがき・排泄」をしっかり行うことがすべての自己実現につながっているのではないかとということです。私は、テレビ・ゲーム・スマホの時間を減らす努力を続けることも必要不可欠と考えます。4つの「みがき」として、①心みがき(読書)を増やす、②頭みがき(予習・復習、詩の暗唱)を増やす、③体みがき(運動)を増やす、④家族みがき(会話やふれ合い)を増やす努力を続けることも極めて重要ではないでしょうか。年末年始に不規則な生活習慣の中、家族がテレビ・スマホ・ゲームの画面ばかりを見つめ、家族同士のアイコンタクトや会話もなく、ふれ合いもない状況が一つ屋根の下で無意識に続くことだけは絶対にないように願っています。ご家族やご親戚とのかかわりの中でも、「親しき仲にも礼儀あり」の言葉どおり、お子さんが自分から、「あけましておめでとうございます。今年もよろしく願います」という、さわやかなあいさつができるように見届けてください。

それでは、冬休み中も交通事故や健康に十分気をつけて、1月9日(火)の3学期始業式には、元気な明るいあいさつで笑顔あふれる、心機一転の子どもたちに会えることを楽しみにしています。